

厭世

数年前の夏休み明け、ある図書館があるツイトをしました。



ハラスメント
きとどどこかで
自分もやって
いるだろうつ
おとす知んまに
若任取

「学校が死ぬほどつらい子は図書館へいらつしやい」

生きることを厭になることを厭世観といいます。財産

や才能の貧苦に悩み、ままならぬ恋に悩み、近親者の死

に悩む。これらの悩みは、時代や国境を越えて共通のよ

うです。誰にでも訪れる悩みを仏教は体系化しました。

日本の浄土教の始祖源信僧都の著書『往生要集』に

は、人の世には三つの厭相があるとされています。不浄・

苦・無常です。私たちの肉体を構成する骨・肉・内臓は、

思うようならず、このいのち尽きれば腐敗していく不浄

なものである。この肉体は老いを感じたり病気になるた

りと生老病死の苦にさいなやまされる。無常の理のごと

く栄枯盛衰を繰り返す。常なるものは無い。

こうして体系化することにより、仏道を志す重要な働

きかけとなりました。「厭離穢土 欣求浄土」浄土教の

大事などころは、この世を厭うばかりではありません。

この厭う世において、どうかしてすくいたいと阿弥陀

如来が常に願っておられる。願いの中に生かされている

ことに気づくのがさらに大事などころです

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語
を紹介して
います。

演説

演説を広辞苑で調べると、
①述べ説くこと。説明するこ
と。」



②多くの人々の前で自分の主義・主張や意見を述べること。

現代においては②の使われ方がほとんどではないでしょう

か。福沢諭吉と慶應義塾の人々が、「スピーチ」を演説と訳

したことから明治以後に②の使われ方になったようです。そ

れ以前は主に①の使われ方でした。仏教においても①の使い

方です。演説の語源が違います。

演説(仏教)・・・ニルデーシャ (Dharma, サンスクリット語)

の訳で、教えを演べ説くこと。法(真理や道理など)を人々

にわかりやすく説き明かすこと

江戸時代までは、自己の主張をすることではなく、教えを

演べ説くことの意で使われました。仏教の教えは、自己や自

分に固執することを否定します。自分というものですら、思

うようにままならないからです。

福沢諭吉さんは素晴らしい功績を遺した方ですが、「スピー

チ＝演説」「サンキュウ＝有難う」の訳は、

本来の意味とはちよつと違っていたので

はないかと思えます。翻訳の難しいところ

です。

